

【準特選】

へい和しゆう会で考えたこと

鹿島小学校 三年 中原 諒一

げんしばくだんが、さがのとなりの長さきに落とされた  
なんて、かわいそうでした。広しまにも落とされたそうで、  
こっちもとってもかわいそうでした。たった一このげんし  
ばくだんで、たくさんのおいのちが一しゆんでなくなっ  
てしまったと聞いて、びっくりしました。また、げんしば  
くだんが落とされたえいきょうで、何十年もびよう気でく  
るしんでいる人もいると聞いて、げんしばくだんってこわ  
いなあと思いました。

ぼくのおじいちゃんは、ずっと前に長さきに住んでいた  
そうです。げんしばくだんがおとされたあとに、空の色を

見たら、真っ赤だったそうです。いつもは青空なのに、空  
が真っ赤になるなんて、おそろしかっただろうなあと思い  
ました。もしも、今、日本がどこかの国とせんそうになっ  
てしまったら、家がこわれてしまったり、いのちをうばわ  
れてしまったりするかもしれません。ぼくの家がなくなっ  
たり、殺されたりするかもしれないと思うと、とってもこ  
わいです。せんそうは、とってもよくないものだと思いま  
した。

へい和しゆう会で、げんしばくだんやせんそうの話を知  
っているうちに、いつの間にかけんかやいじめなどの話に  
かわっていました。どうしてかなあと考えながら話を聞い  
ていたら、せんそうは国と国とのけんかから始まること  
がわかりました。しかも、けんかはだんだん大きくなること  
も知りました。

日本がほかの国とせんそうをしないためには、世界中の人たちとなかよくしたらいいと思います。だから、今のぼくたちにできることは、けんかをしない、わる口を言わない、むしはしないなど、まわりの友だちとなかよく生活することが大切だと思います。